

「松本城」継続審議の個別課題についての検討状況

1 指摘された「松本城」の個別検討課題について

「松本城」は継続審議とされ個別的課題として次の2点が指摘されました。

(1) 主 題

「主題及び顕著な普遍的価値について、検討が必要。その際には、近世の大名文化を背景に形成された城郭又は城下町の観点から本資産の位置付けを明確化するとともに、城郭のみの資産構成が適切であるのか、あるいは城郭については既登録の「姫路城」、暫定一覧表に既記載の「彦根城」との統合が可能であるのか等について、検討が必要。ただし、城下町の観点から捉えた場合には、他の提案の中に主題の類似するものがある」

(2) 資産構成

「城郭の堀及び土塁等の骨格を表す諸要素の保存状況、城郭と一体を成す城下町の諸要素に対する評価の視点が必要」

個別課題の解釈

資産構成を城郭のみとするか、城下町を含めた資産とするかという資産の位置づけの検討並びに、既登録の「姫路城」及び既暫定一覧表記載の「彦根城」との統合が可能かの検討の必要性を指摘されたものと解釈しました。

「城下町の観点から捉えた場合には、他の提案の中に主題の類似するものがある」については、他の提案事例は「近世高岡の文化遺産群」、「城下町金沢の文化遺産群と文化的景観」及び「萩城・城下町及び明治維新関連遺跡群」の提案を指しているものと考えます。

2 「松本城」の資産構成について

主題及び顕著な普遍的価値については、近世城下町の道路に丁字路・喰い違いや鍵の手が残され、町割りの跡も見ることができます。また、近代化された市街地の地下に商家や武家屋敷の遺跡が発見されています。松本の城下町は明治期3度の大火に見舞われました。その後、都市景観は街の近代化により大きく改変されていますが、松本市全体を屋根のない博物館として自然、文化、生活に関わるすべてのものを保護し守っていこうという市独自の「松本まるごと博物館構想」にもとづき残された武家屋敷や明治の火災を免れた近世の書物や文書、被災後造られた建築物等を大切に守り後世に伝えていこうとする取り組みが始められています。以上、今日の城下町の現状に鑑み、主題及び顕著な普遍的価値については、本丸及び二の丸の天守を中心とした史跡並びに三の丸の城郭遺跡に焦点を絞り、その普遍的価値を重点的に検討するのが合理的と考えました。

3 主題について

(1) 主題を「姫路城を中心とした日本の近世城郭群」に設定

日本の近世城郭史は、安土城築城以来江戸時代までを図 1 のように4期に分けるのが一般的であり、松本城天守は、日本の近世城郭発達史の中に位置づけられたとき、はじめて歴史的普遍性が明確になるとの認識に達しました。

したがって、松本城と建築年代区分の違う姫路城や彦根城等と統合することで日本の近世城郭群として世界の城郭の中で普遍性がより明確になると考えました。

図 < 日本の近世城郭発達史 >

天正・文禄期	1573～1596	【 安土城・豊臣大坂城 】 松本城3棟(天守・渡櫓・乾小天守)
慶長前期(関ヶ原戦前)	1597～1600	【 岡山城・広島城 】
慶長後期(関ヶ原戦後)	1600～1615	彦根城・姫路城・犬山城・高知城・松江城・丸岡城・ 初代宇和島城・初代伊予松山城・初代弘前城
元和以降(江戸期)	1615～1868	丸亀城・備中松山城・松本城2棟(辰巳附櫓・月見櫓)

表記城郭は国宝・国重文天守をもつ現存12城。【 】内の安土城は現存しない。また、豊臣大坂城・岡山城・広島城は外観復元

解説 近世城郭は、中世の山城から平城・平山城へとその立地を変えていきました。防壁は土塁から石垣に変わり、郭内には瓦屋根の恒久的な建築物である白漆喰塗籠しろしつくいぬりこめの天守や御殿が建築されるようになりました。

また、天守の建築様式においては、石垣積み上げ技術の進歩せいくけいが正矩形の天守台建設を可能にし、1610年以降、従来の入母屋に望楼を乗せた形の「望楼型天守」から屋根の数「重」と階が一致する「層塔型天守」といわれる天守の築造を可能にしました。

1600年、関ヶ原の戦による政治的変革が徳川氏による「優雅な外観をもった白亜の天守」を生み出しました。このことは戦国末期、城郭が堅固な戦略的城郭から領国支配の拠点としての意味をもつようになったことを示しています。

既登録の世界遺産「姫路姫」、既暫定一覧掲載の「彦根城」は、日本の近世城郭発達史上最盛期の「慶長後期」に属する城郭です。松本城天守は、現存する城郭としては「天正・文禄期」に属する戦略的性格の強い城郭であるとともに、「元和以降」の江戸期の櫓げんが複合している城郭です。

(2) 国宝三城との歴史的特徴の比較

昨年提出した「世界遺産暫定一覧表記載資産候補提案書」に掲げた松本城天守を他の国宝三城と比較した歴史的特徴の4項目は次のとおりでした。

- ア 戦国末期鉄砲戦に備え、戦う城として現存する我が国唯一の漆黒の天守である。
- イ 松本城は国宝四城の内唯一の平城である。
- ウ 戦国末期の戦うための天守と泰平の世になって付設された櫓が複合連結されている城郭は国宝四城のうち松本城天守だけである。
- エ 松本城総堀の両側より防御用の杭列が発見され極めて貴重な歴史遺構である。しかし、これらは日本城郭発達史の上から、松本城が戦国末期、「天正・文禄期」の戦略的城郭としての特徴であって、我が国近世城郭史からみて普遍的要件が十分に満たされているとはいいがたいという認識に至りました。

(3) 日本の近世城郭群の歴史的普遍性

「世界文化遺産特別委員会の調査・審議結果」では、「その資産が日本の歴史・文化の一端を示す連続性」を重視していくとしています。

したがって、日本の近世城郭が発達した時間的連続性を重視し、「姫路城を中心とした日本の近世城郭群」という主題のもとに資産の再構成を行うことによって世界的に見て普遍的な価値を明確にすることができるのではないかとの結論に達しました。

世界文化遺産特別委員会の調査・審議結果は「都道府県域を越えてリンクする一連の文化遺産群」という構想が今後増加していくのではないかと見ており、「一つの主題の元に複数の資産を組み立てる手法」をとる場合、地域間の距離は問題にならないことを示唆しています。

既登録の「姫路城」に既暫定一覧表記載の「彦根城」と「松本城」等を加え、「姫路城を中心とした日本の近世城郭群」という主題の元に資産を再構成することによって、世界的に見て日本の近世城郭群の歴史的普遍性がより明確になると考えます。

4 世界遺産における拡張資産の主な事例について

(1) フランス「ロワール渓谷」

1981年単独登録された世界遺産「シャンボール城と領地」は、2000年「シュリー=シュール=ロワールとシャロンヌ間のロワール渓谷」として再登録され、ロワール渓谷最大の城である「シャンボール城」はその中に包含されることとなりました。

ロワール渓谷には300を超える古城が存在し、それらは中世の城砦やルネサンス期に造られた王城です。ルイ14世の頃からヴェルサイユ宮殿の存在により、ロワール渓谷の諸城の政治的重要性は失われますが、城の改修が継続され今日に残されています。

(2) 「ベルギーとフランスの鐘楼群」

ユネスコは、1999年世界遺産に「フランドル地方とワロン地方の鐘楼群」として32の鐘楼を登録しました。2005年にこれらにワロンのノール=パ・ド・カレー地域圏、ピカルデー地域圏の23の鐘楼を追加し、「ベルギーとフランスの鐘楼群」と名称が変更されました。これは国境を越えた統合の事例です。

(3) 北京と瀋陽の明・清王朝皇宮

1987年に世界遺産登録された北京の故宮博物院は、世界最大の皇宮で、明・清の24代の皇帝の宮城でした。2004年には清の前身「後金」の皇帝の皇宮並びに清王朝の離宮であった瀋陽の「瀋陽故宮」が追加登録されました。

以上のように「まとまりのある一定地域」において歴史的に価値ある遺産が追加登録又は再編成された事例があり、「姫路城を中心とした日本の近世城郭群」という主題と資産構成は、合理性をもっていると考えます。

5 「松本城」の世界文化遺産の登録基準の見直しについて

(1) 当初提案の登録基準（と の解説）

平成18年度「世界遺産暫定一覧表記載資産候補提案書」において提案した、iと の登録基準について次のように解説しました。

人類の創造的才能を表現する傑作

日本の近世城郭は「天正・文禄期」「慶長前期（関ヶ原合戦前）」において、天守の城壁は下部に下見板をはり雨から城壁を守っていた。その上部に白漆喰の白壁が塗られていた。やがて、「慶長後期（関ヶ原合戦後）」には優美な外観の、権威の象徴としての白亜の城が造られるが、それは天守の性格が戦略的城郭から領国支配の拠点としての城郭に変わったことを意味していた。松本城天守は日本城郭史の上で現存する最古の五重六階の天守である。

人類の歴史上重要な時代を例証する建築様式・建築群・技術集積または景観の優れた例
近世城郭は中世山城から平城や平山城に変化するが松本城は典型的な平城で複合扇状地の軟弱地盤の上に築かれている。緩やかな傾斜に築かれた総堀・外堀・内堀は水面を一定に保つために堀の各所に「水切土手」や土橋を設けて水の流下速度を調節している。

天守建築に当たっては天守台内部に16本の樫の土台支持柱を埋め込み天守の加重を地面に直接伝える工夫がなされている。また、軟弱地盤に石垣を積み上げるために堀底に「筏地形」が施されたり地盤のズレを防止するため土留の杭も打たれている。

文禄期の石垣を積み上げる技術では天守台上面は正矩形に築くことができず松本城天守台は四周の石垣が内側に湾曲している「糸巻型」である。この天端の歪みを「武者走」で吸収し、一階入側柱内の身舎を正しい長方形に造り、上層階に柱筋を通し天守の重量をこの一階身舎下の土台が受け止め、さらにその下方の土台支持柱につながっている。まさに湿地帯に技術の粋を集めて造られた天守である。

(2) 登録基準「」の追加（「姫路城を中心とした日本の近世城郭群」により）

「姫路城を中心とした日本の近世城郭群」という主題を設定する中で「松本城」の登録基準を考えた場合、の「ある期間を通じて、または、ある文化圏において建築、技術、記念

碑的芸術、町並み計画、景観デザインの発展に関し、人類の価値の重要な交流を示すもの」が該当すると考えられます。

すなわち、姫路城・彦根城・松本城等がそれぞれに建築様式が異なり、それを支える建築技術も多様です。織豊政権しよくほうせいけんから関ヶ原の戦を経て徳川政権が強固になるに連れて城郭の性格が戦略的拠点から領国支配の拠点としての天守に変化しました。それにともない、天守のデザインは堅固な下見板張りの黒を基調とした意匠から姫路城に代表される「権威の象徴としての白亜の天守」が多数建築されるようになります。このように、政治の変革が天守のデザインに反映してくるといふ歴史的事実を踏まえ「 」の基準を追加することとなります。

6 その他

(1) 姫路城・彦根城等との統合・再整理に向けた動きについて

以上のような考察から、松本城の個別検討課題である既登録遺産「姫路城」、既暫定一覽表記載遺産「彦根城」等との統合・再整理が可能であるか、また、その実現の可能性等について次のとおり意見交換を行いました。

- ・平成 19 年 6 月 22 日 彦根城との意見交換
- ・平成 19 年 11 月 7 日 姫路城との意見交換

平成 20 年度は、国宝四城で「日本の近世城郭群」としての統合が可能かさらに研究を深めたいと考えています。

したがって、「姫路城を中心とした日本の近世城郭群」として申請するため、各自治体の合意形成と資産構成、今後の保存計画等の検討が早急に必要です。今後、国宝四城を中心に研究を深めます。

(2) 「松本城」継続審議以降の周辺整備の現状と見通しについて

ア 松本城外堀の復元（南・西外堀 約 8,900㎡）

（ア）平成 19 年 10 月 23 日 市長、外堀復元を表明（11 月 1 日地元説明会を実施）

（イ）平成 19 年 11 月 2 日 松本市議会教育民生委員協議会と建設委員協議会は外堀復元を了承

（ウ）平成 20 年 3 月 西外堀の外側ラインを確定のため発掘調査実施予定

イ 国史跡「土井尻土塁」の復元と整備

（H19.2 国史跡追加指定約 680㎡ 全体計画約 1,700㎡）

（ア）平成 19 年度 歴史公園として整備のための基本設計を策定

（イ）平成 20 年度 土塁復元のための発掘調査と実施設計の作成

（ウ）平成 21 年度 歴史公園として整備

ウ 松本城周辺建物の高さ制限

景観法に基づく新たな「景観計画」の策定と松本市都市景観条例の改正を行います（平成 20 年 4 月 1 日施行を予定）。松本城周辺は、「お城歴史的景観区域」として高さを制限(29.4m)。

都市景観計画説明会は、平成 19 年 10 月 23 日から 5 回実施

工 松本市立博物館の移転（二の丸古山地御殿跡）

平成 19 年 7 月に基幹博物館基本構想策定委員会の提言を受け、平成 20 年 7 月を目途に基本計画策定委員会が基幹博物館の移転場所、経費、施設の規模等について基本計画を策定し、遅くとも平成 26 年度までに移転完了の予定

オ 松本城管理事務所の移転（本丸内）

松本城管理事務所の移転については市立博物館移転と連動して検討

カ 世界遺産登録に向けた今後の取組み

平成 19 年 8 月 22 日に「史跡松本城整備研究会」の指導助言を得ましたので、今後、松本市関係部課を中心に「国宝松本城を世界遺産に」推進実行委員会とともに「姫路城を中心とした日本の近世城郭群」という主題のもとにいかに運動を推進すべきか検討

「史跡松本城整備研究会」は委員 6 名（有識者）と指導助言者 3 名（文化庁、県等）で構成

(3) 今後「姫路城を中心とした日本の近世城郭群」として資産を再構成する際の課題について日本の近世城郭史の研究を深め世界の城郭と比較し唯一性を明確にするとともに姫路城・彦根城等と共同研究を深め、合意形成を図っていきます。

ア 姫路城・彦根城等と「姫路城を中心とした日本の近世城郭群」としての統合再整理について、具体的な推進計画を文化庁の指導助言を得て作成し、研究を推進します。

イ 「松本城および周辺整備計画」の充実を図ります。

ウ 国及び県の指導・助言をいただき、また庁内関係部課の強化を図り、研究を推進します。

資料

1 松本城の普遍的価値

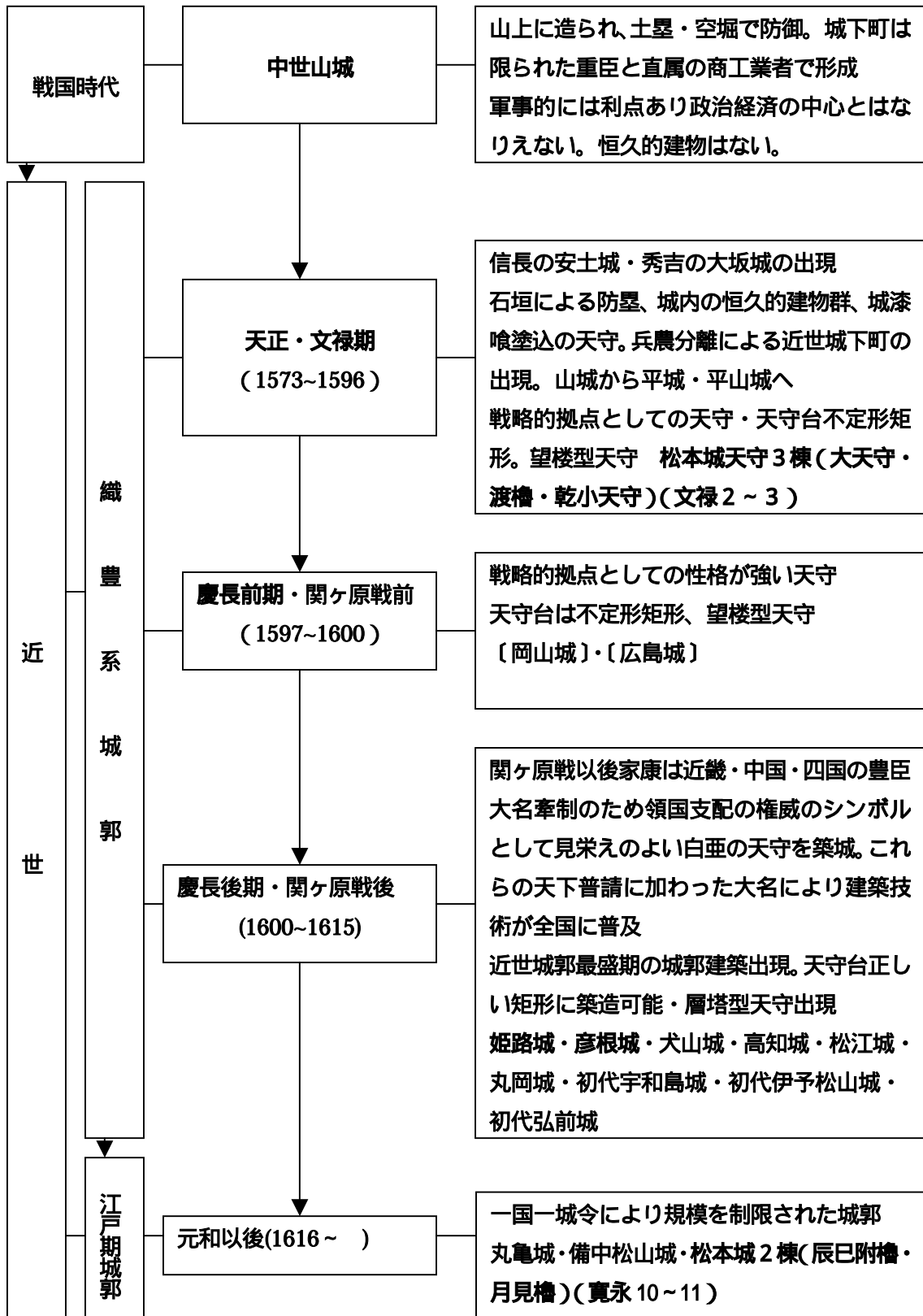
(1) 松本城の歴史的特徴

- ア 武田信玄によって整えられた戦国時代の縄張を残す平城
- イ 天守は、中山道・甲州街道を固め関東の徳川家康を監視する豊臣方の城として築造
- ウ 天守は、近世城郭史の中で「天正・文禄期」に位置付けられる現存する日本最古の5重6階の天守
- エ 戦略的拠点としての天守から領国支配のためのシンボルとしての白亜の城郭へと1600年以降変化するが、松本城は戦国末期戦略拠点としての性格を色濃く残す天守（黒漆塗り下見板張りの天守）
- オ 1633年から1634年にかけて松平直政により大壁づくりの瀟洒な月見櫓が増設され、戦略的天守と泰平の世の城郭が複合連結された城郭
- カ 女鳥羽川と薄川の複合扇状地に工夫して建てられた天守（筏地形・天守台内部に16の土台支持柱・地盤のズレを防止する土留の杭列）
- キ 望楼型天守と層塔型天守の両方の要素をもつ天守
- ク 典型的な「梯郭式+輪郭式」縄張をもつ城郭
- ケ 天守群は、「連結複合式」と呼ばれる構成
- コ 虎口は攻撃的な外柵形

(2) 松本城と類似施設（他の国宝三城）との比較

- ア 戦国末期鉄砲戦に備え戦略的期城郭として造られ、現存する5重6階の天守としては我が国最古の天守
- イ 松本城は国宝四城のうち唯一の平城（他は平山城）
- ウ 戦国末期の戦略的な天守と泰平の世になって付設された櫓が複合連結された城郭
- エ 松本城総堀両岸より防御杭列が発見された貴重な歴史的遺構をもつ。（全国2例目）
- オ 松本城の縄張りは典型的な梯郭式+輪郭式縄張
姫路城 渦郭式 彦根城・犬山城 連郭式
- カ 松本城天守は国宝四城の中で唯一の連結複合式天守
- キ 市民の意思と行動により明治初期の破壊を免れ保護された天守

2 近世城郭の発達史



表記城郭は国宝・国重文天守をもつ現存12城。〔 〕内の岡山城・広島城は外観復元